

◆ 新収蔵資料紹介（令和5年度3月）展示解説シート ◆

歴史資料の^{らいれき}来歴を探る～内野家旧蔵資料～

会期：令和6年3月1日(金)～31日(日)

久留米市立六ツ門図書館展示コーナー

令和5年6月16日付けで寄贈を受けました「内野家旧蔵資料」(資料番号 A2023-009)を初公開します。本資料群は、もとは塚島村(現・北野町)の内野家が所有したもので、内容は近世から近代にかけての記録や図書など、総数は52点です。この中には、江戸時代中期の久留米藩士で学識に優れた杉山正義・正仲父子の旧蔵本も含まれています。

本市に持ち込まれた当初、どのような経緯で今日まで残されてきたのか、あまり分かっていませんでした。今回、展示資料とともに資料群の来歴を探るプロセスの一端についても紹介します。

●No.1 太宰府天満宮故実卷之上下 江戸時代

儒学者・貝原益軒(1630～1714)「太宰府天満宮故実」の写本です。展示箇所の記事は“歴史資料の出所と伝来”に関するもので、この写本は杉山正義が61歳の時に書写したものであり、のちに御井郡塚島村の内野宗治(宗次)の手に渡ったことが分かります。また、表紙の芯紙には杉山家の反故紙が使用されています。

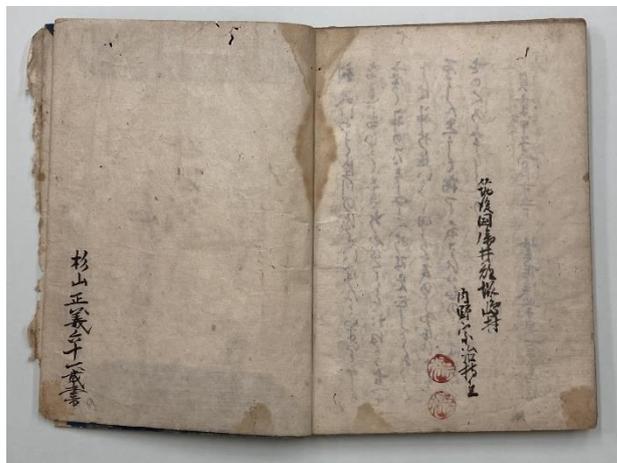
●No.2 久世家傳 江戸時代

江戸時代の譜代大名・久世家の系譜で、杉山正仲による写本です。後表紙見返しに「杉山正仲模写」と記されています。展示箇所の表紙見返しに「塚島村内野宗次持主」と記され、蔵書印も杉山・内野両氏のものが押され、この写本の所有者がNo.1と同様に、杉山家から内野家に移ったことが分かります。

●杉山正義・正仲

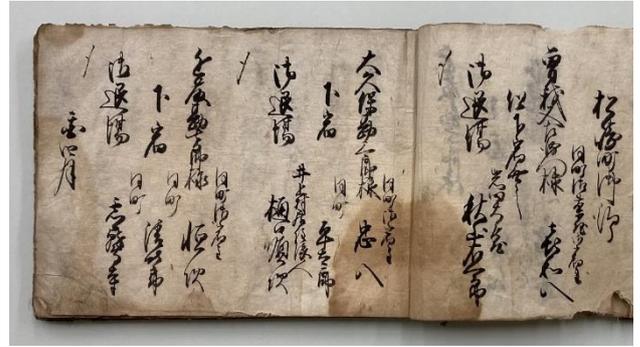
杉山家は代々久留米藩士の家系で、京隈小路を屋敷地としました。正義(?～1749)は藩儒・合原窓南に易を学び「易経本義和解」等を著し、その人となりは「豪邁威望群を抽ずる」と評されました。

正義の子・正仲(1725～1793)もまた文武に秀で、医術・書画・插花・点茶にも通じ、天明5年(1785)に藩校講談所(後の明善堂)が開校されると講席掛りの任を受けました。安永6年(1777)、学友・小川正格と共に著した「筑後志」は、現在の郷土史研究においても重要な資料となっています。



●No.3〔幕府巡見使通行一件〕江戸時代後期

江戸幕府は諸藩の情勢や領民の暮らしを視察するため、全国に巡見使を派遣しました。展示資料は久留米藩が巡見使を迎えた時の記録ですが、年代は記されていません。本文に記述された巡見使3名(曾我、大久保、近藤)の組合せを、関係する文献を調べることで、天保9年(1838)の巡見使の記録であることが分かりました。



●No.4〔武鑑〕江戸時代後期

武鑑は江戸時代に出版された大名や幕府役人の名鑑で、姓名・紋所・居城等が記されています。展示資料は、出版年は不明ですが、記載された人名等を辞典で調べた結果、文化年間(1804~18)頃のものとして推測されます。No.3・4の内容から、これらの所有者が幕藩の役人に関わる職務や役割を担ったことが想像されます。

